



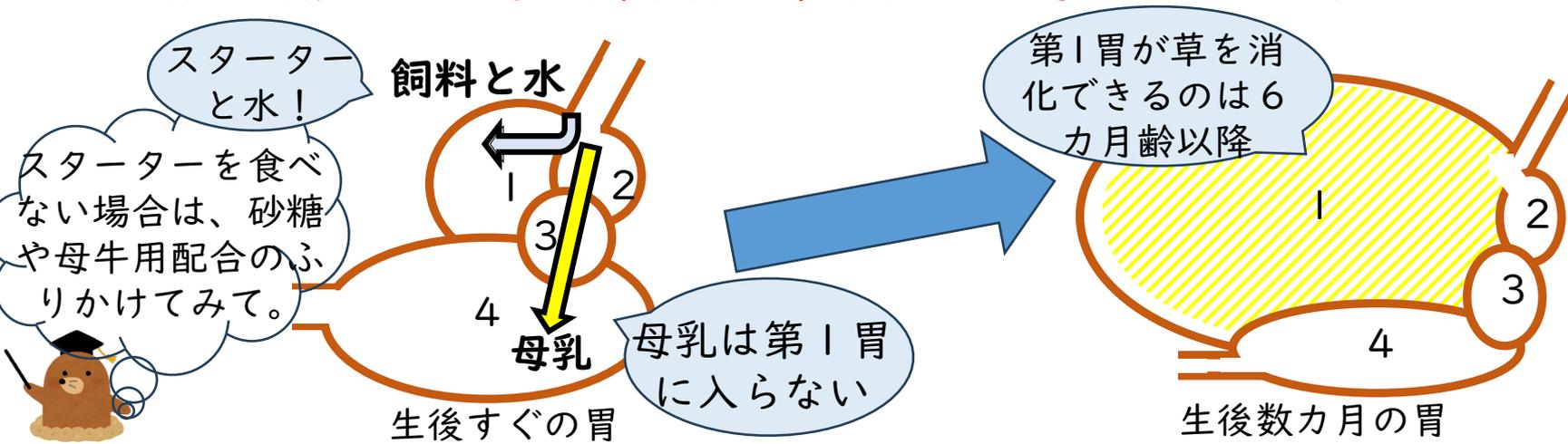
その子牛、**もうひと伸び**させませんか!?



不思議と市場前の1カ月で、ぐ~んと大きくなる子牛がいます。**子牛をもうひと伸び**させる飼養管理のポイントは?

まずは濃厚飼料でルーメンを発達（5カ月齢まで）

子牛は、哺乳期間中に**固形飼料と水を摂取**することで、**第1胃の容量や機能が発達**します。固形飼料が分解された時の**VFA**（揮発性脂肪酸）の**化学的刺激**で**表面が発達**します。草ではダメ！



粗飼料は給与の仕方によって摂取量が変わります。

粗飼料を食わせる工夫例

- ・ 10～15cm程度に**細断**し、**残飼**は毎回**取り除く**。
- ・ 給与**回数を増やす**（朝、夕の**2回**⇒朝、昼、夕の**3回**）、または、**草架**を設置して、**いつでも食べられる**環境を整える。
- ・ **複数種類**（草種、番草、稲わら）を**用意**（図1）。
なお、**日齢が進むと、硬く長いものを好む**。



草架の例

兵庫県で実施した複数種類の**粗飼料を自由採食**させる**試験**では、**摂取する粗飼料の種類が日齢とともに変化**しました。離乳以降にチモシーが増え、育成後期にはオーツヘイが増えました。

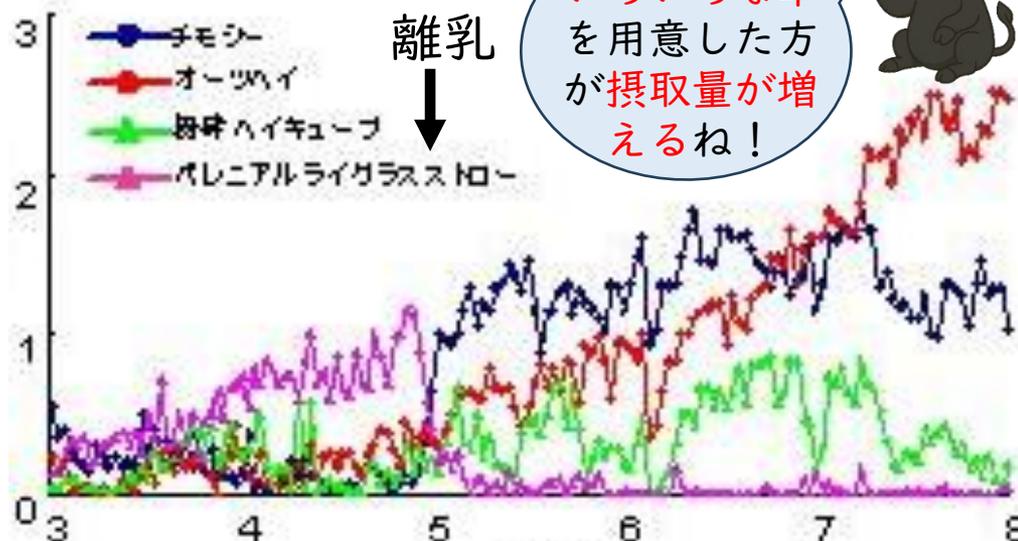
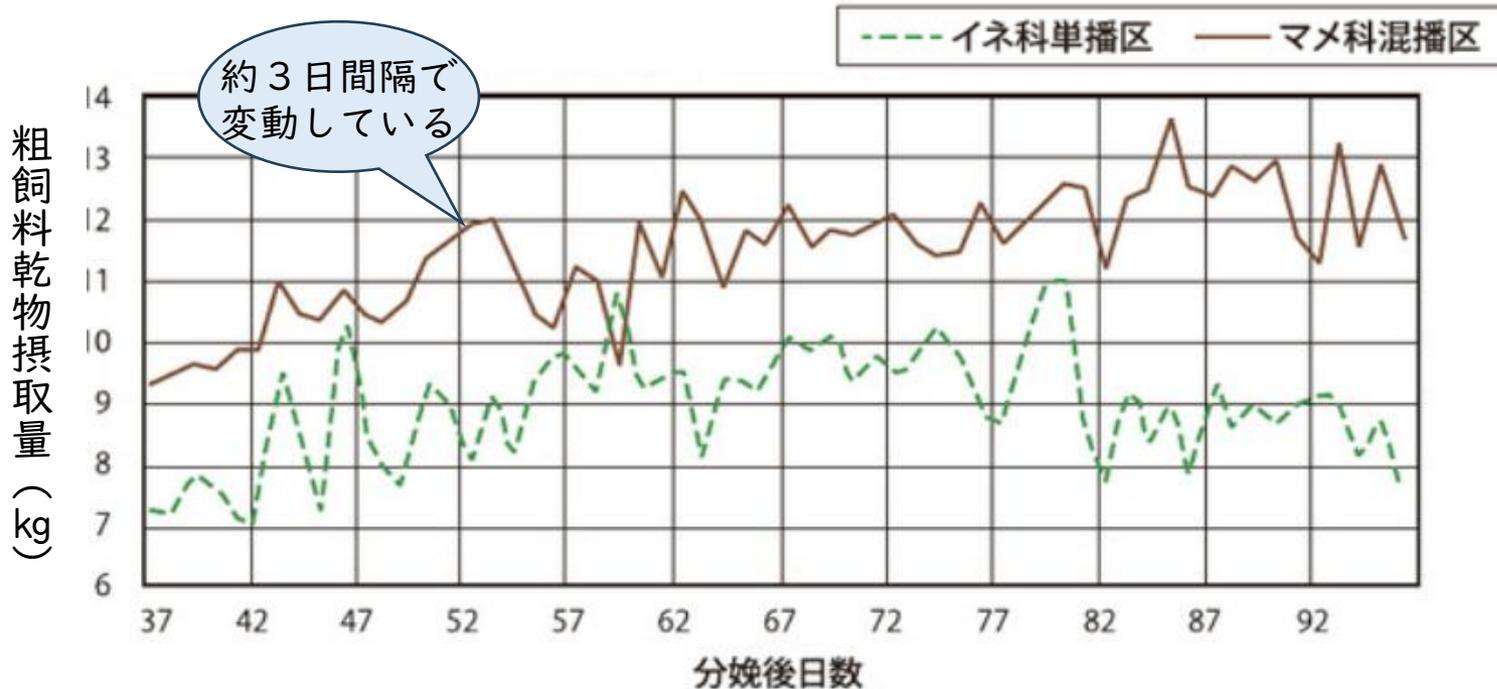


図1 複数種類の粗飼料給与効果

粗飼料は日によって摂取量が変動します。

牛が**摂取**した**粗飼料**を**測定**した試験（図2、乳牛）によると、**牛の摂取量**は日によって**変動**し、一定ではありません。このため**残飼**に併せて粗飼料の**給与量を減らす**と、牛の**摂取量を抑えて**しまうことに繋がります。牛が食べたいときに食べられるよう**飼槽には常に粗飼料**がある状態を保ちましょう。



繁殖サイクルを回してガッチリ👏～見えない儲けをわしづかみ！～

第9回は、発育途上の未経産の栄養充足と過大子を避けるため生時体重の小さい種雄牛選びについてでした。今回は、『維持期の栄養管理』と維持期（分娩前）にやるべきことについてお伝えします。



↑県飼養管理
マニュアルの
ダウンロード

第10回 維持期の管理（栄養管理）

1 本牛の発育は2産目まで

繁殖牛は36カ月齢頃までには発育がとまり、本牛の発育のための栄養を考慮する必要がなくなります。このため2産目以降からは体型維持に努めるため、表1の飼料給与メニュー例を参考に太らせないこと、且つ、長めの粗飼料や稲わらなど腹持ちを意識したメニューとします。

表1 飼料給与メニュー例

体重 (kg)	乾草※1 (kg/日)	稲わら※1 (kg/日)
450	6.0	1.5
500	6.5	1.5
550	7.0	1.5

維持期は粗飼料のみで栄養充足可能

※ 表中の飼料の成分値

OG2番草：水分12%、CPI5%、TDN56%

稲わら：水分12%、CP5%、TDN43%

2 繋ぎ替えや除角、削蹄はこの時期に

授乳ストレスや繁殖への影響が少ない時期なので、牛にとってストレスとなる繋ぎ替えや除角をする場合にはこの時期に行います。また、分娩予定2カ月前までには削蹄し、姿勢の悪化や関節症を防ぎましょう。

なお、パドックや放牧地を利用（暑熱期は）した放し飼いは、自然分娩を誘導し分娩難易度の低下に寄与します。

放牧もね



写真1 伸びすぎた蹄



写真2 簡易日陰舎